

2.8 Teck Resources

2.8.1 企業概要

設立：1906年	本社：BC州バンクーバー(カナダ)	上場先：TSX
決算期：12月末	CEO: Donald R. Lindsay (05年4月～)	連結従業員数：10,000名
主な生産鉱種： Fe Cu Al Zn Pb Pt Pd Au Ag ダイア K P 石炭 石油 ガス Ni Mn Mo Nb Cr Ti Zr Co B U		

■ 経営数値 ■

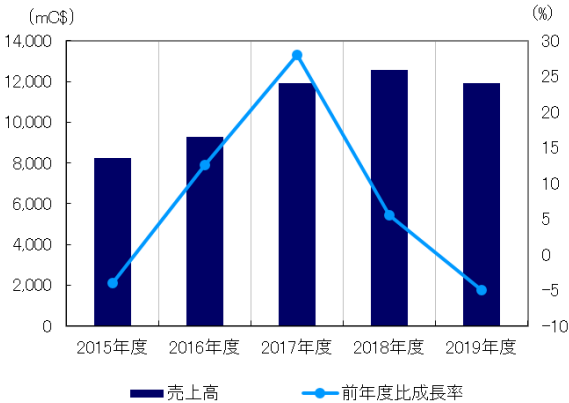


図 2-8-1. 売上

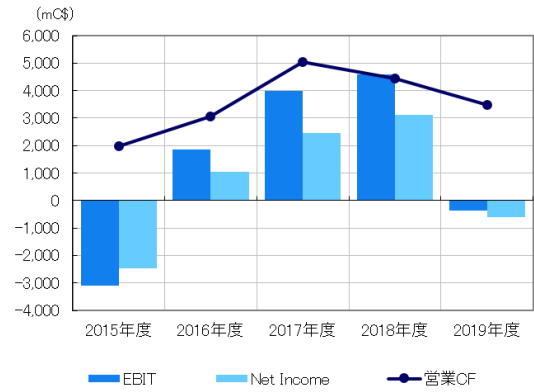


図 2-8-2. 利益

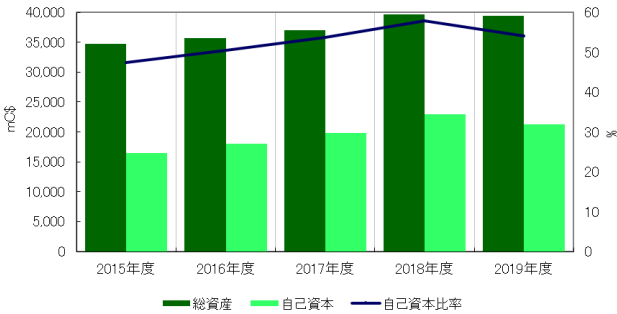


図 2-8-3. 資産

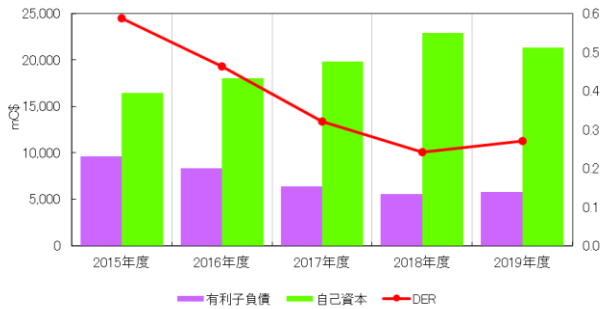


図 2-8-4. 負債

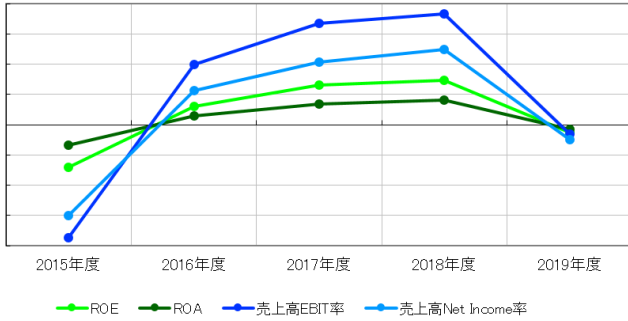


图 2-8-5. 收益性

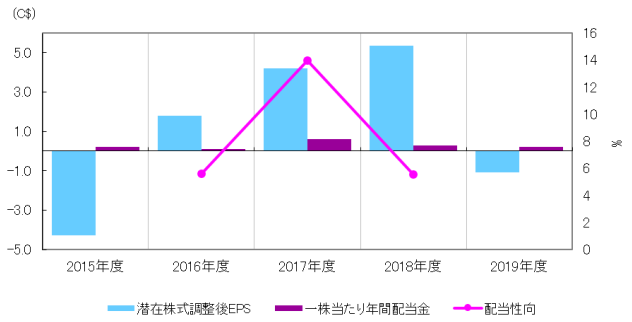


图 2-8-6. 配当

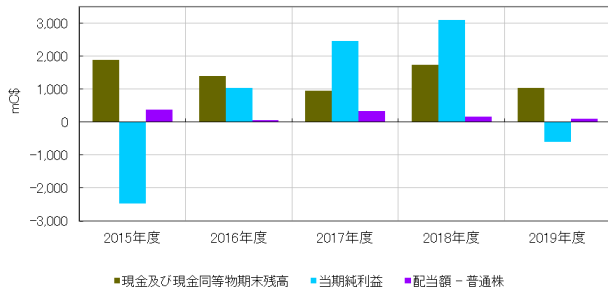


图 2-8-7. 内部留保

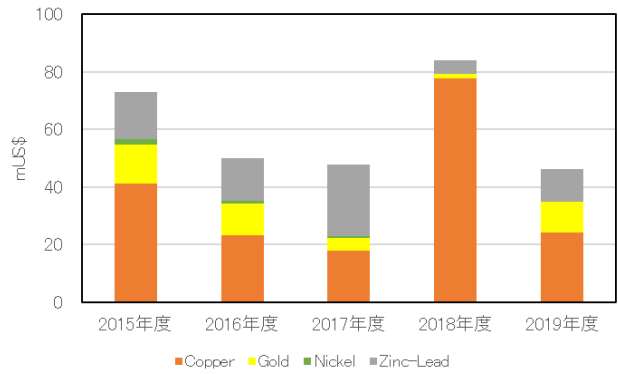


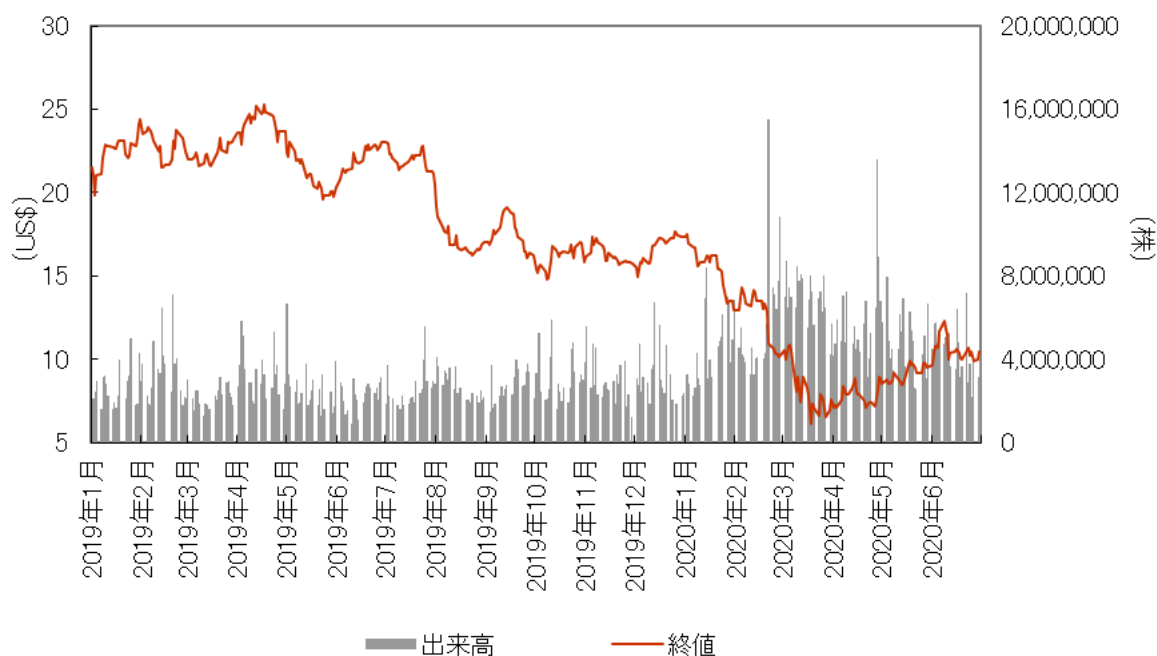
图 2-8-8. 探鉱費

## 2.8.2 個社概況

2017年は主力事業の原料炭、銅、亜鉛がいずれも主要コモディティの中でも目覚ましい価格回復を見せ、過去最大級の売上、利益、営業キャッシュフローの達成に貢献した。その結果として、Don Lindsay CEOがアニュアルレポート中で再三強調しているように、競合他社との比較においても「強固な財務状況」の確立に成功したと言える。

今後は期待の大型プロジェクトであり、業界の関心を集めていたパートナー選定が落ち着いたチリの Quebrada Blanca 銅鉱山の第二フェーズ開発の着実な進捗が同社の大幅な成長には不可欠であることは間違いない。また、2018年初に生産を開始したオイルサンド事業へのエクスポージャーが他社のポートフォリオには見られない独特なラインナップで、今後の展開が興味深い。

同社はカナダの資源関連企業としては Barrick Gold 社に次ぐ時価総額を誇る一方、集中した事業領域を含め、少なくとも現状は効率的な経営/運営重視の現れと見受けられる。これが結果か、それとも通過点か、経営陣の視線はどこを向いているのだろうか。



(参考)図 2-8-9. 株価推移

### 2.8.3 Teck Resources の鉱種別アセット所在地





## 2.8.4 オペレーション別の生産量

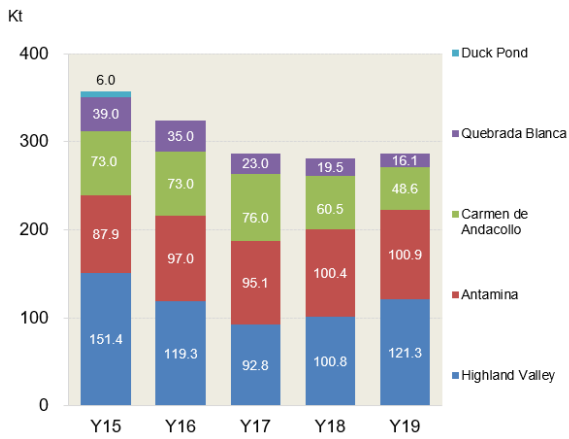


図 2-8-10. 銅

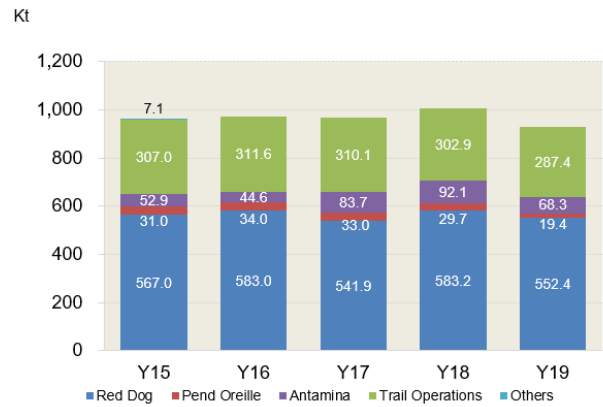


図 2-8-11. 亜鉛

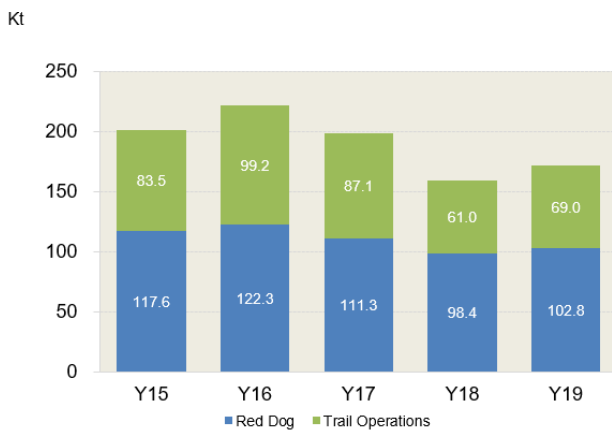


図 2-8-12. 鉛

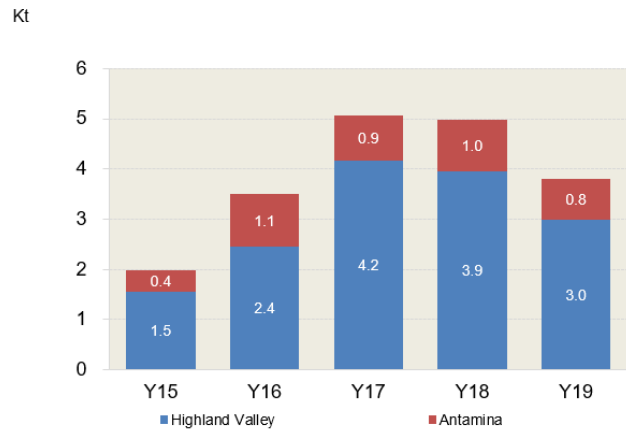


図 2-8-13. モリブデン

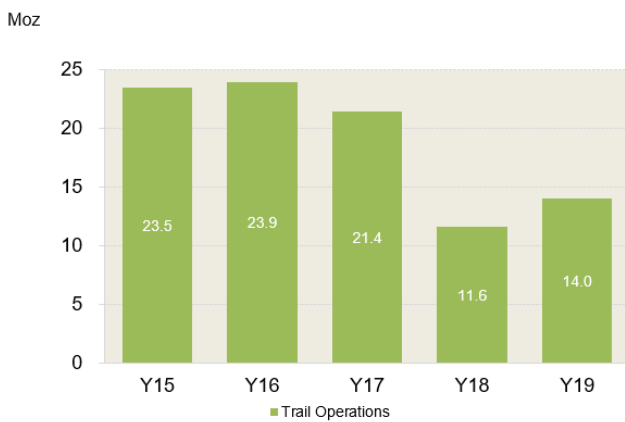


図 2-8-14. 銀

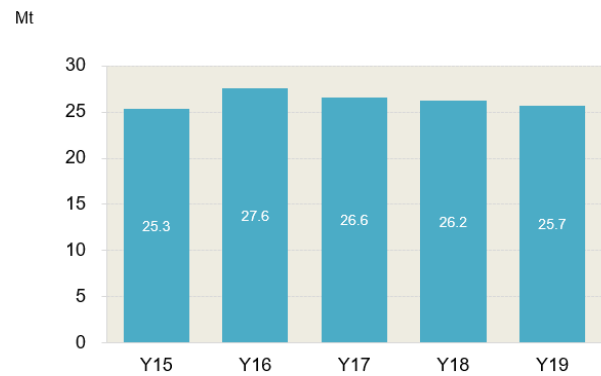


図 2-8-15. 原料炭

2.8.5 主なトピックス（19年会計年度：2019年1～12月末）

月日	鉱種	ニュース
2019年 5月9日	銅	<p><b>加 Teck Resources 社、Zafranal 及び SanNicolás 銅プロジェクトの売却等を検討</b></p> <p>2019年5月1日付け地元紙によると、加 Teck Resources 社（本社：バンクーバー）がペルー及びメキシコに保有する Zafranal 及び San Nicolás（2017年7月2日付 <a href="#">ニュース・フラッシュ：加 Teck Resources 社、San Nicolás プロジェクトの Goldcorp 社分権益を取得参照</a>）銅プロジェクトの将来的な売却等の可能性について報じている。同社は、チリに保有する Quebrada Blanca 鉱山の投資を優先する予定であり、ペルー及びメキシコに保有する両プロジェクトについては、共同開発のパートナー探し、若しくは売却を検討している。同社幹部は、喫緊の問題ではなく、財務状況を考慮しつつ検討するものであると回答している。</p> <p style="text-align: right;">（メキシコ事務所 森元英樹）</p>
2019年 5月9日	その他	<p><b>豪鉱業界の自動操業システム導入に向けたガイドライン作成の動き</b></p> <p>2019年4月24日付けの地元メディアによると、BHP、加 Teck 社、豪 Roy Hill 社は、鉱業界における自動操業システム導入に向けたガイドライン作成プロジェクトに協力している。このガイドラインは、Global Mining Guidelines Group により出版されるもので、様々な規模での自動操業システムの導入を考慮する関係者に対し、その枠組を構築するための基礎情報を提供するものである。同ガイドラインでは、自動操業をレベル0の完全手動操業からレベル5の完全自動操業に分類し、関係者の希望する導入速度や規模に合わせた助言が掲載される。同プロジェクトの共同リーダーを務める BHP の Chirag Sathe 氏は、このガイドラインは既に自動操業システムを導入済みの事業者にとっても有益な情報となるであろうとし、自動操業システム導入に向けた問題解決の解答とまではならないものの、解決に向けた指針を与えることになるであろう、とコメントしている。</p> <p style="text-align: right;">（シドニー事務所 吉川竜太）</p>
2019年 10月30日	その他	<p><b>Teck Resources 社、約 500 名の人員削減及び 500mC\$ の支出削減を発表</b></p> <p>地元紙によると、世界経済の先行きが不透明となりコモディティ価格が下落した影響を受け、加 Teck Resources 社は正社員 500 名に相当する職を削減することを発表した。2018 年末時点での同社社員数は約 1 万人。自然減及び一時雇用者の契約更新や現在空席のポジションの補充を行わないことで実現する予定。また、同社は 2020 年末までに 500mC\$ の支出を削減する計画である。設備投資の削減や延期を中心に実行予定なるも、世界最大規模の銅埋蔵量を誇るチリの Quebrada Blanca 鉱山 Phase 2 プロジェクトは将来の成長に向けた重要案件とし</p>

		<p>て投資を継続する。</p> <p>(バンクーバー事務所 武市知子)</p>
2019年 12月10日	銅	<p><b>Teck Resources 社のチリ Quebrada Blanca II プロジェクト、デモの影響及び遺跡の発見による遅延と投資額減少の予想</b></p> <p>2019年12月6日付けの地元メディアによると、Teck Resources 社の Fraser Phillips 上級副社長兼投資家向け広報及び戦略分析担当は、デモ活動は Quebrada Blanca II プロジェクトのスケジュールとコストに影響を及ぼすと述べている。現在、港から標高 4,200m の地点にあるプロジェクト建設現場まで資材を輸送するのに問題が生じている。輸送される資材は、法律で定められた大きさを超えているため、警察による交通整理、誘導を必要とするが、抗議デモにより交通誘導をできる警察官が不足し建設に支障が出ている。また、港建設区域で遺跡が発見されたため、この対応による建設工事の遅れが生じることも予想されている。一方、プロジェクトの投資額は 625CLP(チリペソ)/US\$ で計算され、総額 4.7bUS\$ と見積もられていたが、現在の CLP/US\$ レートが約 30% 上がっていることから、当初の額より最高約 500mUS\$ 減少する可能性がある。</p> <p>(サンティアゴ事務所 梶島太郎)</p>
2019年 12月17日	銅 金 モリブデン	<p><b>チリ NuevaUnión 社、7.2bUS\$ の投資計画を練り直す</b></p> <p>2019年12月7日付けの地元メディアによると、NuevaUnión 社 (Teck Resources 50%, Newmont Goldcorp 50%) は、先週、プロジェクトの調査に携わっていた約 120 名の労働者のうち 80 名を解雇したことを発表した。当初、2019 年年末に環境影響評価 (EIA) 手続き開始を予定していたが、10 月 10 日に手続きの延期と 2020 年中にプロジェクトの最適化を図ることを発表していた。NuevaUnión 社は Relincho と El Morro の両プロジェクトを組み合わせた合弁事業であり、共通のインフラスト、選鉱プラント、港湾設備により投資額、環境影響の削減を目的としている。マインライフは 38 年、最初の 5 年間に年間 224 千 t の銅、269 千 oz の金、および 1,700t のモリブデンを生産し、フェーズ 1 (2023 年生産開始) の投資額が 3.5bUS\$、フェーズ 2 (2026 年拡張) の投資額が 3.7bUS\$ と見込まれている。</p> <p>(サンティアゴ事務所 梶島太郎)</p>

(出典：JOGMEC ニュースフラッシュ)